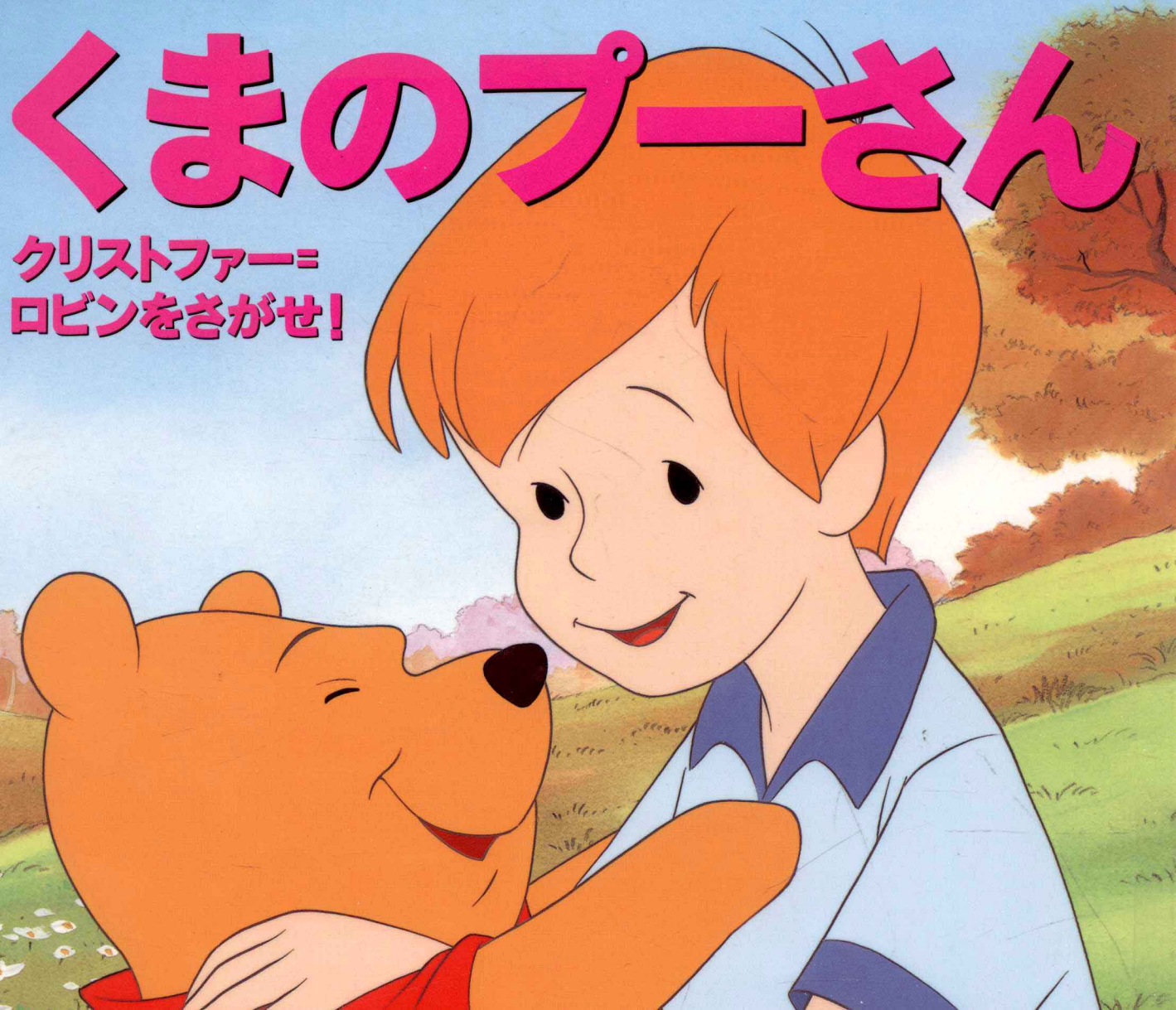


デ ィ ズ ニ ー ア ニ メ ラ ン ド

くまのプーさん

クリストファー＝
ロビンをさがせ!

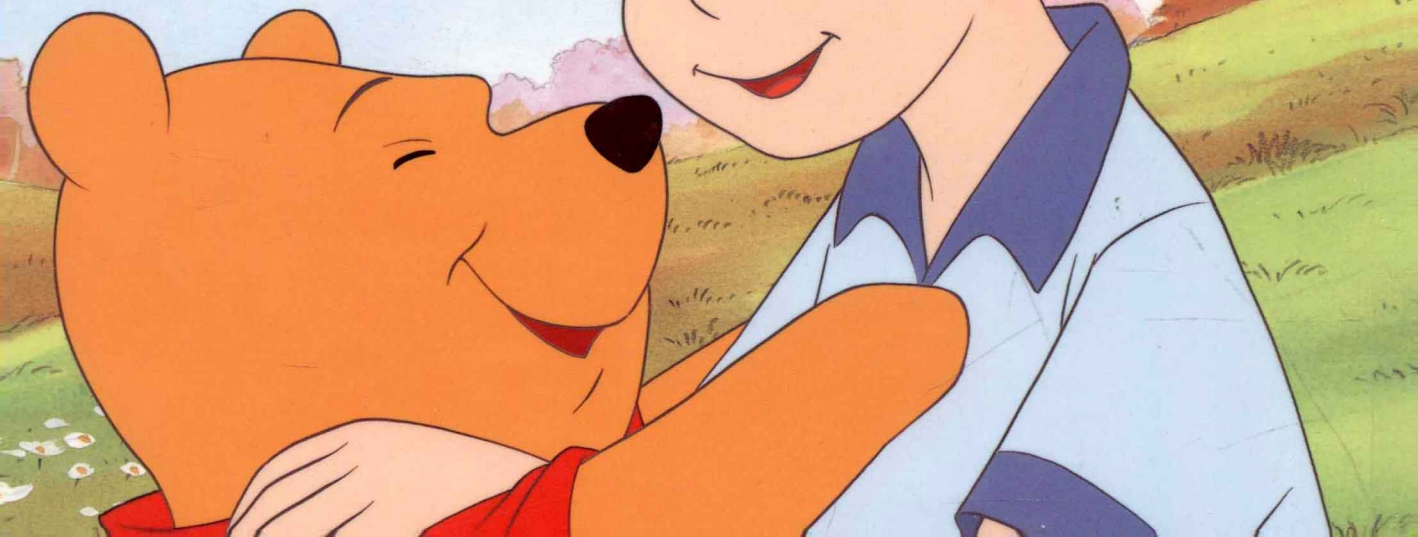


デ ィ ズ ニ ー ア ニ メ ラ ン ド

くまのプーさん

クリストファー＝
ロビンをさがせ！

江苏工业学院图书馆
藏书章



かれはが ひらひら まいおり

て、百^{ひゃく}エーカ^ー森^{もり}に あきが

やつて きました。

「きようは、かれはの 山^{やま}に

とびこんで あそぼうつと！」

げんきに そとに とびだした

くまの プー^{ぷー}さんは、はちみつの

つぼを みつけました。

「てがみが ついてるぞ。こまつ

たなあ。字^じは にがてなんだ。」





プーさんが あるいて いくと、
ティガーと ピグレットが、きのぼ
りに しっぱいして おちて きま
した。はずみで あたりは どんぐ
りだらけ。

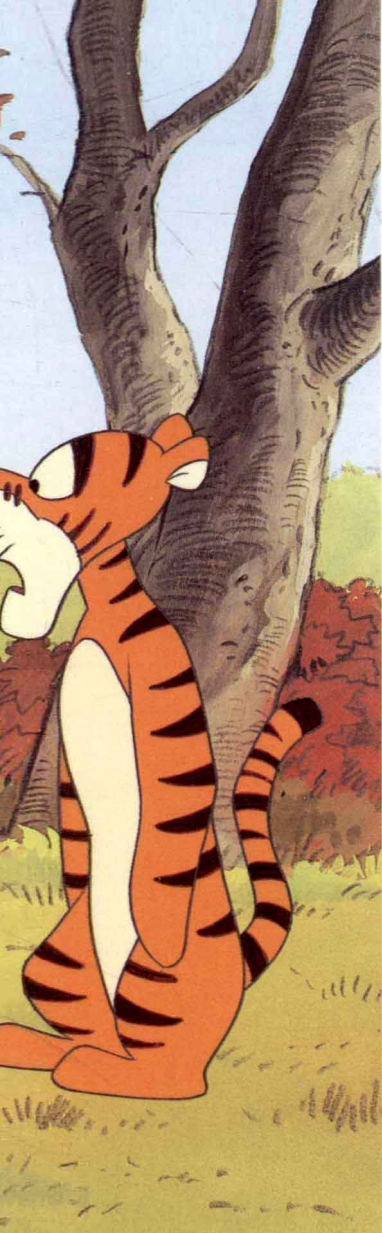
「やあ、プーさん。どこに いくの？」

「ラビットに てがみを よんで

もらおうと おもってね。」

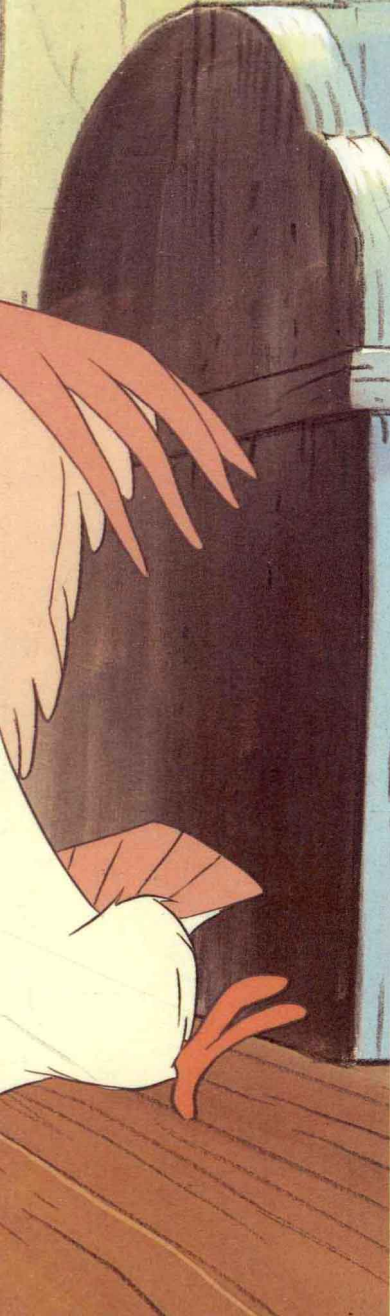
でも、ラビットは、

「こりゃ、ぼくにも よめないよ！」





そこで ふくろうに たのむと、
「クリストファー・ロビンからじゃ
な……た、たいへんじゃ！ あの子は、
がと この つく おそろしい ばしよに
いるらしいぞ。」
「きつと がいこつ山だよ！」
「たすけに いかなきゃ！」
みんなは ふくろうに ちずを
かいて もらい、大ぼうけんに
でかける ことになりました。





とげの 森^{もり}を ぬけ、 人^{ひと}くい
花^{はな}に かじられそうに なりなが
ら すすんで いくと、 まぶしい
はらっぱに でした。

ちようちようが いっぱい

とんで きて、ピグ^{びぐ}レ^れツ^っト^とに

とまりました。すると、ピグ^{びぐ}レ^れツ^っ

ト^とは ふんわり 空^{そら}に うかんで、

「きやあ、とんじやったよ！」

「だいじようぶ、ピグ^{びぐ}レ^れツ^っト^と？」





かぜに とばされた ちずを
おつて、^てイ^いガ^がーが たにそこに
おちそうに なりました。

たすけようと した みんなも
がけから とびだし、ちゅうづり
に なって しまいました。

「もう とびおりるしか ない！」

みんなは だろの ^{かわ}川めがけて
^{ひゅー}ン、^{ぼし}バ^{しゃん}ン！

どうにか たすかりました。





どうくつの よるです。プーさ

んは なかなか ねむれません。

あくる日、みんなは びっくり。

「ぼ、ぼくたち、がいこつ山の

そばで ねむってたんだ！」

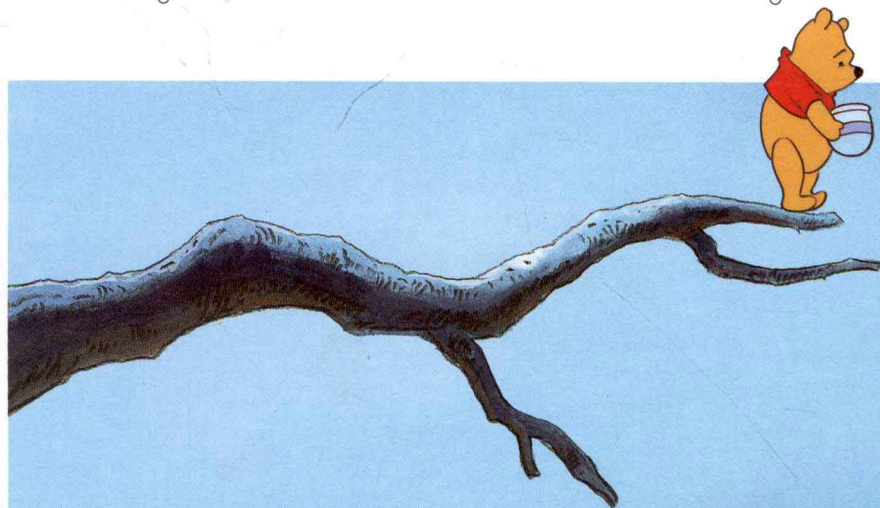
「でも、あそこには、クリスト

ファーロロビンが いるんだよ。

だいじょうぶかなあ……。」

みんなは ゆうきを だして、

どうくつにはいって いきました。





すこし　いくと、わかれみちに
でました。みんなは　べつべつに
すすんで　いきました。

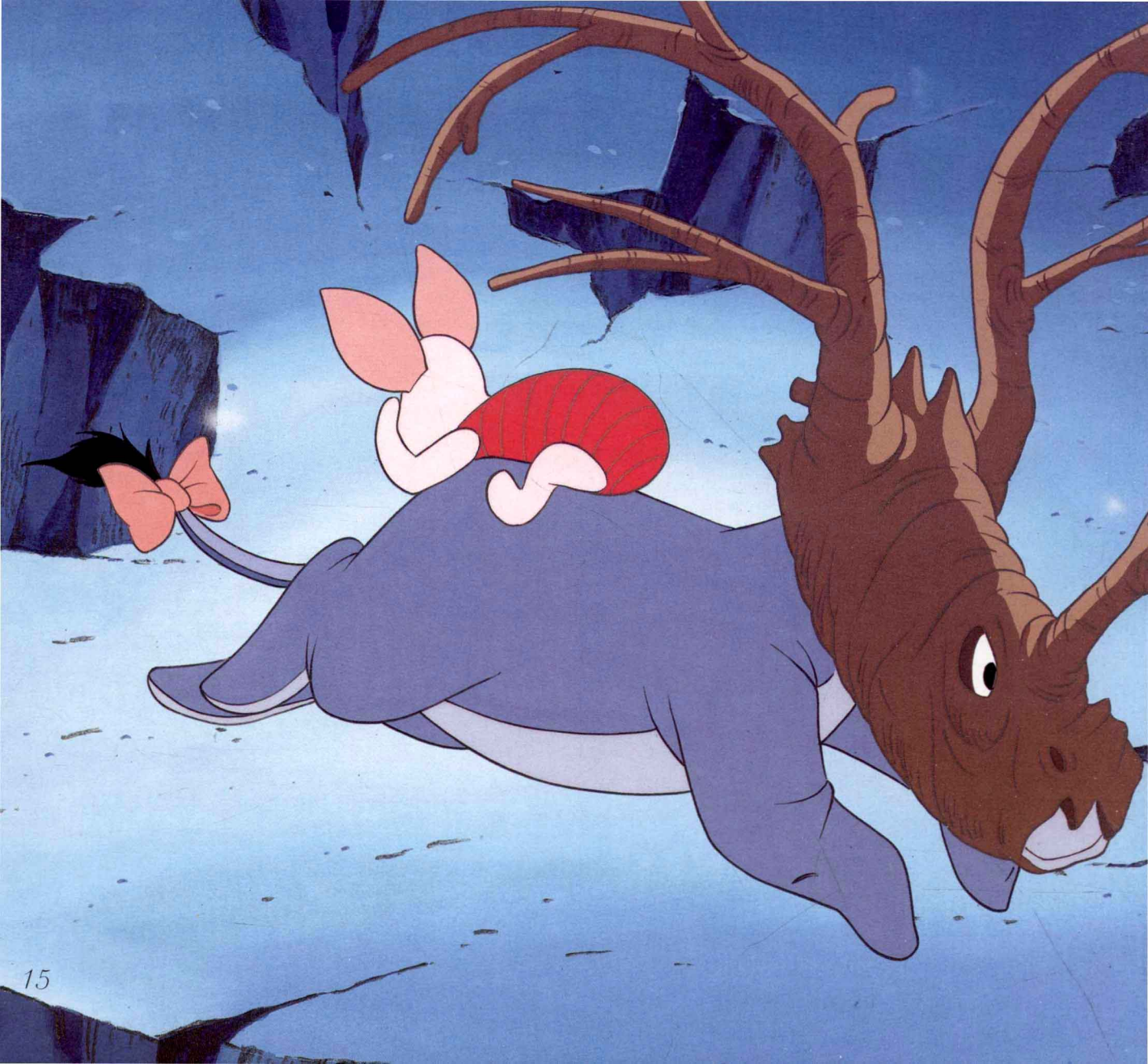
すべった　ひょうしに　木の

ねが　かぶさって、かいぶつみた
いにな　った　ろばの　イーヨー。

めちやめちやに　はしる　イー
ヨーの　せなかに、ピグレットが
のつかって、ふるえて　います。

「た、たすけて……。」





「あ、あれを みろ！」

みんなの まえに すごい

かいぶつが——と おもったら、

プー^ぷさんの かげでした。

おっと！ プー^ぷさんが こおり

の みちで すべりました。

ラビ^らット^と、テイ^てガー^が、ピグ^ぴレッ^れツ

ト^と、イー^いヨー^よは、べつべつの

みちを すべつて、また いっしょ

になりました。

